

## 令和7年度 事業報告

令和7年度は「第5次中期計画」の最終年度として、「安心と信頼 魅力あるセンターを目指して」の基本目標の下、「会員数の増強」、「多様な就業機会の確保」、「安全就業の徹底」、「地域ニーズへの対応」、「組織体制の充実・強化」に向けた施策を展開しました。

しかしながら、定年延長や再雇用制度の普及などにより60歳代の会員の入会は減少し、75歳以上の会員の割合が60%を超える状況であり、加齢に伴う病気や体力減少、あるいは移動手段の制約などの理由から退会する会員も多くなっています。会員数は前年度末から18人減少し811人となり、3年連続の減少となりました。

請負業務の契約額は、最低賃金の上昇を反映し標準作業単価の見直しをしたものの、前年度を3.0%下回る約2億6,789万円にとどまりました。派遣業務は単価アップ分を超えた7.2%増加の約1億6,277万円で、請負と派遣を合わせた契約額の合計は、0.6%増加の約4億3,066万円とほぼ前年度並みとなりました。また、就業率は1.3ポイントの減少、就業確保数を示す受注件数は121件の減少、就業延べ人員は3.0%減少した8万4,166人日となり、仕事量としては減少しています。一方、経常収支では、包括契約を導入したことで消費税の納付額が減少したこともあり、約560万円の黒字となりました。

安全就業については、傷害事故9件、賠償事故10件、計19件の事故が発生し、昨年より6件増加しました。特に6月から7月に事故が連続して発生したことから、剪定、草刈に従事する会員を集め緊急の安全対策会議を開催し、安全就業基準の順守と事故への注意喚起を行いました。近年増えている草刈における飛び石事故は4件あり、昨年と同数の事故が発生しました。

地域貢献事業としては、シルバー元気市の開催、レストランさくらの運営を行いました。秋には、市主催の「健康フェスタ」に合わせて「シルバー元気まつり」を開催し、会員をはじめ地域住民の多くの参加を得て賑わいました。また、ボランティア活動は春開催の日程を4月に変更し、秋開催と合わせて延べ195人の参加がありました。

組織体制の充実として、会員のデジタルへの理解・関心を深めるため「スマホ教室」を全6回開催し、延べ56人が参加しました。一方、会員アプリ「スマイル・トゥ・スマイル」の登録率は34.6%と伸び悩み、前年度から約3ポイントの上昇にとどまりました。また、「事務局だより」の発行や「広報かが」紙面広告の掲載などにより、会員とのコミュニケーション強化、シルバー就業の発信を図りました。

令和7年度事業実績の詳細については、次のとおり報告します。

## 1. 会員の登録状況

区分	令和7年度	令和6年度	差 引
男	474人	480人	△6人
女	337人	349人	△12人
計	811人	829人	△18人

会員の平均年齢（歳）			会員の最高年齢（歳）	
男性	女性	全体	男性	女性
76.3	75.8	76.1	97	92

(単位：人)

性別	年度当初 会員数	入会 員数	退会 員数	年度末 会員数	退会理由				
					就職	病気	死亡	加齢	その他
男	480	42	48	474	1	8	8	6	25
女	349	34	46	337	4	10	3	11	18
計	829	76	94	811	5	18	11	17	43

## 2. 事業の実績

項目		令和7年度	令和6年度	前年度のとの比較	
会員数		811 人	829 人	△ 18 人	-2.2%
	男性	474 人	480 人	△ 6 人	-1.3%
	女性	337 人	349 人	△ 12 人	3.4%
就業率		75.8 %	77.1 %	-1.3 ポイント	
就業延人員		84,166 人日	86,753 人日	△ 2,587 人日	-3.0%
請負事業	就業延人員	53,678 人日	56,583 人日	△ 2,905 人日	-5.1%
	受注件数	2,251 件	2,398 件	△ 147 件	-6.1%
	契約金額	267,887,348 円	276,096,421 円	△ 8,209,073 円	-3.0%
	支払配分金	239,918,435 円	245,052,140 円	△ 5,133,705 円	-2.1%
	受取材料費	4,552,231 円	7,118,867 円	△ 2,566,636 円	-36.1%
	受取事務費	23,416,682 円	23,925,414 円	△ 508,732 円	-2.1%
派遣事業	就業延人員	30,488 人日	30,170 人日	318 人日	1.1%
	受注件数	205 件	179 件	26 件	14.5%
	契約金額	162,772,688 円	151,839,387 円	10,933,301 円	7.2%
	賃金	149,261,257 円	139,245,363 円	10,015,894 円	7.2%
	受取事務費	13,511,431 円	12,594,024 円	917,407 円	7.3%
合計	契約金額合計	430,660,036 円	427,935,808 円	2,724,228 円	0.6%
	配分金・賃金	389,179,692 円	384,297,503 円	4,882,189 円	1.3%
	材料費	4,552,231 円	7,118,867 円	△ 2,566,636 円	-36.1%
	受取事務費	36,928,113 円	36,519,438 円	408,675 円	1.1%

※派遣事業：県シ連が公表する当センターの契約金額は 189,787 千円(県の諸経費 27,014 千円を含む)

○元気市事業

① 大聖寺元気市 (R7. 5. 10～R7. 12. 20 毎週土曜日 8:00～9:00)

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減
収 入 金 額 (円)	1,271,338	1,167,510	103,828
就 業 実 人 員 (人)	12	12	0
就 業 延 人 日 (人)	245	205	40

② 松が丘元気市 (R7. 5. 11～R7. 12. 14 毎週日曜日 8:30～9:30)

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減
収 入 金 額 (円)	734,585	794,930	△60,345
就 業 実 人 員 (人)	12	11	1
就 業 延 人 日 (人)	223	182	41

③ 普及啓発事業 (R7. 11. 8 元気まつり 健康フェスタと共催)

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減
収 入 金 額 (円)	142,827	147,250	△4,423
就 業 実 人 員 (人)	11	10	1
就 業 延 人 日 (人)	11	10	1

○レストランさくら

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減
収 入 金 額 (円)	7,291,420	7,089,700	201,720
費 用 (経 費) (円)	8,799,730	8,543,582	256,148
収 支 (円)	△1,508,310	△1,453,882	△54,428
利用者人数 (人)	9,297	9,671	△374

○菊の湯 番台清掃業務

区 分	令和7年度	令和6年度	増 減
収 入 金 額 (円)	47,509,000	44,857,000	2,652,000
費 用 (経 費) (円)	42,927,506	40,599,504	2,328,002
収 支 (円)	4,581,494	4,257,496	323,998

[会員増強]

- ① 会員数については、入会者76人、退会者94人、年度末会員数は差引18人減の811人となりました。入会説明会の参加者数、入会者数、就業数ともに昨年度より増加しましたが、退会者数が多く目標値の850人には及びませんでした。

会員数の減少から、受注業務に必要な人員の確保が十分にできなかつたり、途中欠員が生じたとき直ちに補充できなかつたりする場合があります、さらに、未就業会員からの相談においては、発注者側が必要とする人材と求職会員の希望条件が合わない「アンマッチ」が生じています。

- ② 新規入会促進対策として、会員紹介の報奨制度には15人が対象となり、前年より1人増加しました。会員増強の一翼を担っていることから、今後も当該制度の周知、啓発が必要です。

#### [就業機会確保・契約実績]

- ① 契約実績については、請負事業は前年度比3.0%減、派遣事業は7.2%増となり、契約総額は約4億3,066万円、0.6%の増となりました。目標額の4億7,500万円を下回り、ほぼ前年度並みとなったものの過去最高額を更新しました。受注件数は減少し、請負と派遣合わせて121件の減少、請負・派遣の就業延べ人員は2,587人日の減となりました。
- ② 経常収支決算については、収益約1億2,837万円、経費約1億2,277万円で、収支は約560万円の黒字となりました。

### 3. 健康管理と安全就業の推進

#### [事故防止対策]

- ① 令和7年度は、傷害事故9件、賠償事故10件が発生しました。傷害事故としては、草刈作業で長期の入院を要する事故が発生したほか、件数は昨年と同数でした。賠償事故では、飛び石事故が4件と減る傾向にはなく、注意喚起と対策の徹底が必要であります。車両の接触事故など事故の大半は不注意が原因であり、会員への注意喚起を行っていきます。
- ② 令和7年度も安全パトロールを屋外作業の繁忙期の6月から10月に10回実施しました。熱中症を防ぐ水分補給と適度な休憩、ヘルメットの着用など会員の安全就業状況を確認するとともに、センター事務局と会員のコミュニケーションを深めました。

#### [安全就業意識の啓発と向上]

- ① 安全就業と健康管理は車の両輪であることから始めた健診受診奨励制度には54人の利用がありました。前年度から5人減となり、引き続き周知強化を図る必要があります。

- ② センター広報紙「シルバーだよりかが」を2回、事務局だより「かがやく」を4回発行し、スマイル・トゥ・スマイルへの登録、安全就業の啓発、元気まつりの開催、フレイル予防のほか、職場紹介、頭の体操クイズなどの情報を発信しました。
- ③ 安全就業標語は、会員7人から16作品、健康増進標語は会員9人から20作品の応募がありました。最優秀作品各1点を啓発活動に活用していきます。

#### 4. 地域貢献活動の推進

- ① 加賀市から指定管理を受託している「かが交流プラザさくら」の会議室利用者数は、一部の会議室で臨時的に利用の制限があったものの3,798人増加し、2万2,177人となりました。
- ② レストラン利用については、前年度より374人少ない9,297人の利用でありました。売上は価格改定もあり増加しましたが、物価上昇による材料費の高騰などの影響で費用も増え、収益は約5万円減少し、約151万円の赤字を計上しております。しかし、かが交流プラザさくらと周辺地域の賑わいづくりの役割を果たす必要があり、引き続き収支改善に取り組み運営します。
- ③ 買い物弱者の支援にもなっている「元気市」活動は、大聖寺地区のかが交流プラザさくらと片山津地区の松が丘町民会館の2か所で行いました。参加会員の減少と高齢化が課題となっています。
- ④ かが交流プラザさくらで「シルバー元気まつり」を秋に開催しました。多くの会員や地域住民が参加し、多くの方に喜ばれ大盛況に開催することができ、賑わい創出に貢献することができました。
- ⑤ 「加賀市もてなしガーデナー」活動は、四季の花々で彩り、かが交流プラザさくらを訪れる利用者を楽しませており、今後も継続していきます。
- ⑥ 「家事支援サービス事業」は、サポーター会員の高齢化や新規サポーター希望の会員が少ない状況です。現在の活動サポーターは6人であり、利用者については、新規申し込みは8人、支援終了が4人であり、年度末には15人の利用者となっています。従来からサポーターと利用者との相性等の関係もあり、充実が難しい状況が続いています。

#### 5. 組織体制の充実・強化

[理事会・各専門委員会の活動充実]

- ① 役員が知識向上と視野拡大の一助とし、今後のセンター運営に役立てるため、11月に能登町シルバー人材センターで視察研修を実施しました。

- ② 総務委員会、事業委員会、安全適正就業委員会及び広報委員会を開催し、活動分野ごとの課題や事案に専門的に取り組みました。また、第6次中期計画の策定に向け、各委員会が所管する分野の内容について審議しました。

[事務局体制の強化]

- ① 会員数は平成30年度から堅調に増加してきましたが、令和5年度から減少に転じ、令和7年度は18人の減少となりました。会員の増強のために、入会適齢階層に絞った啓発宣伝や、企業、商工会議所、ハローワークなどとの情報交換と連携を図っていく必要があります。
- ② 令和7年4月から、請負業務について契約方式を包括的契約に移行しました。発注者と会員には周知や説明を丁寧に行い、大きな問題もなく移行することができました。
- ③ 豊富な機能を備えるシルバー人材センター総合情報処理システム「エイジレス80」を活用して、センター業務の効率化を図り、会員確保、仕事と会員のマッチング、就業会員のフォローなどを実施しました。
- ④ 会員がセンターからのお知らせや就業情報などを閲覧できるスマートフォンアプリ「スマイル・トゥ・スマイル」の普及促進に努めました。また、スマホに親しむ「スマホ教室」を開催しました。会員をサポートできる事務局体制の充実などが求められています。